

子どもと女性の健康相談室

53



福島医大付属病院小児外科
教授、こども医療センター
副部長、移植医療部副部長

田中 秀明氏

小児外科医は子ども特有の未熟さや病気についての専門知識、手術の技術を持った外科医と言えます。私たちが行う手術を大きく三つに分けて説明しましょう。

①閉じているものを開通させる。

②穴をふさぐ。

③悪い部分を取り除く。

は、抗生物質で治すこともありますが、手術を要する場合も臍（へそ）だけに傷をつけるような腹腔（ふくくう）鏡手術を行います。小児がんの治療も行います。抗がん剤と組み合わせつつ、最新の医療機器を駆使しながら摘出手術を行っています。

将来を見越して治療

腸の一部が生まれる前の段階で途絶えている病気（先天性食道・小腸閉鎖症、鎖肛など）があります。閉鎖部位がすぐ隣の構造とつながりを持っている場合もあります。

生後すぐに閉じている端同士をつなぐ手術が必要です。ミリ単位の太さの腸を縫うので、専用の拡大鏡をかけながら手術します。病気の型によって

裂は先天的なお腹の壁の異常で、臓器が体外に出た状態で生まれてきます。一回の手術で閉じられない場合は、まずは人工の袋で覆い、数日かけて少しずつ戻した後に手術を行います。横隔膜ヘルニアも生まれる前から

い）ヘルニアは、下腹部の壁に本来であれば閉じるはずの隙間が開いたままであることが原因で腸が出入りする病気で、隙間を閉じる手術が必要です。

肝臓がさまざまな原因でうまく働かなくなる病気で、生体もしくは脳死ドナーから肝臓をいただく移植手術を行います。「もうちょう」

ました。お子さんの大切な体にメスを入れさせていただく際には、手術前の正しい評価、丁寧な手術手技、必要最小限の切除、臓器機能の温存、傷を少しでも目立たないよう、そして将来の長い人生を見越した治療を行うことを心がけています。

子どもの手術

肺にのう胞ができる先天性肺気道奇形は肺炎の原因ともなり、胸腔（ききう）と呼ばれる急性虫垂炎

|| 次回は9月21日掲載 ||